

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 7 年 6 月 27 日現在

機関番号：47604

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2022～2024

課題番号：22K00866

研究課題名（和文）患者と医療提供者双方の視点からみた近代地域医療の形成過程に関する研究

研究課題名（英文）A study on the formation process of modern community medicine from the perspectives of both patients and medical providers

研究代表者

黒野 伸子（Kurono, Nobuko）

宮崎学園短期大学・現代ビジネス科・教授

研究者番号：70515957

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、地域医療の形成過程を「患者」「医療提供者」双方の視点から明らかにし、現代における地域医療の在り方を提言することを目的とした。筆者らはこれまで地域医療に関する歴史資料の所在と内容の確認を進め、日本最古の入院診療明細書を発見している。研究ではこの入院診療明細書が含まれた「小寺家文書」の再調査と分析、および近代地域医療における資料の収集・調査・整理を実施した。これらの資料を統合し、「患者」と「医療提供者」が西洋医学の受容に如何に寄与し、近代地域医療を形成してきたかを読み解いた。さらに、社会還元として、貴重な医療遺産を後世に伝えていくためのアーカイブ化、市民に向けた公表を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、東海地方に伝わる明治期の医療関連資料を統合するとともに、「患者」「医療提供者」双方の視点から、小寺家文書や明治の調査資料を中心として、近代地域医療の形成過程を明らかにすることを主な目的として遂行した。その結果、西濃地域では明治後期には西洋医学の定着が見られ、吉益病院、大野病院、在村医などで構成された地域医療ネットワークができつつあったことが明らかとなった。本研究は災害医療（濃尾地震）に従事し、地域医療発展に貢献した吉益雄太郎医師の存在も明らかとなり、その来歴についても把握することができた。

研究成果の概要（英文）：This study aims to clarify the formation process of community healthcare from both patient and healthcare provider perspectives, and to propose its direction in modern times. The present authors so far have confirmed the location of historical documents concerning community healthcare and its content, and found Japan's oldest statement of inpatient medical expenses receipt.

We reexamined and analyzed the "Kodera Family Documents" including it, and we collected, investigated and organized the documents concerning the modern community healthcare. We integrated these documents analyzing how patients and healthcare providers contributed to the acceptance of Western medicine and developed the modern community healthcare. Moreover, we archived the valuable medical heritage to pass it down the generations, and made a public announcement to the citizens.

研究分野：医療史

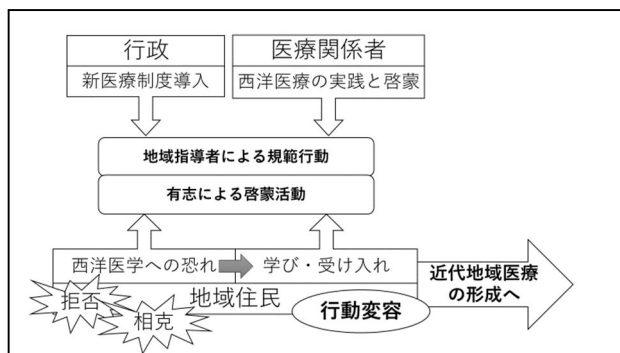
キーワード：近代地域医療 小寺家文書 吉益病院 吉益雄太郎 西洋医学の受容

1. 研究開始当初の背景

【西洋医学の受容と苦難】

西洋医学を基本とする新たな医療制度は明治7(1874)年に導入されたが、感染症予防の啓蒙や西洋医学の啓蒙活動等「幾多の困難と努力」を経て新たな医療体制として地域に根ざし、現代に受け継がれてきた。竹原(2005)は、新たな地域医療の普及活動は「医師」「行政関係者」「有志者」等が主体となっていたとし、その過程を明らかにしている。種痘普及に在村医が指導者として地域医療に貢献した記録も多い。

しかし、近代地域医療に関する研究は、ほぼ「医師」「行政関係者」を主体としている。患者と地域医療のかかわりは考察されていないものが多く、西洋医学の啓蒙活動なども医療提供者の目線で論じられてきた。図表1に示すように、近代地域医療の形成には、地域住民の拒否と相克を根底にした行動変容があったはずである。医療制度の黎明期に地域住民は西洋医学とどのように対峙し、受容してきたのであろうか。近代地域医療の形成過程を明らかにするためには「患者」「医療提供者」双方の視点から見直す必要があるのではないかとと思われる。



図表1：近代地域医療の形成過程概念図

【新資料発見と明治後期の受療行動】

筆者は、2019年8月に岐阜県大垣市の小寺家に伝来する約9000点に及ぶ「小寺家文書」分類項目に「衛生医療」があることを名古屋大学附属図書館ホームページより発見した。2019年9月に当該資料を閲覧し、近代衛生医療に関する資料を100点程確認した。「薬価及手術料明細書」「種痘証明書」「健康食品の啓蒙書」「処方箋」など、明治期の受療行動を示す貴重な医療遺産である。病状に言及した書状や家族で書き継いだ「小寺家日誌」も残されていた。

特に「薬価及手術料明細書(以下明細書と記す)」は、診療内容、購入物、医療費、金銭授受の詳細が記され、単なる領収証とも異なる特異な書類であった。わが国では、医療保険制度が整備されており、医療機関は診療報酬明細書(レセプト)を作成するが、発見した明細書は、その萌芽と思える様式を持っていた。記載内容から、医療規模や患者側の経済的、物的負担、受療行動も読み取れる。明細書は、当主弓之助の長女が明治41(1908)年5月27日から12月6日にかけて虫垂炎で入院した際の入院期間に発行された9通で、1日も欠けることなく残されており、現存する最古の入院診療明細書である。2019年12月には、明治から大正期にかけて愛知県新城市の信玄病院が発行したレセプト原簿、会計原簿の他、院長日誌、病院平面図も確認した。これらの資料からは、受療行動の範囲、病院が及ぼす影響力も測定可能である。2020年7月には、岐阜県各務原市に医塾「好古堂」の存在を確認した。塾生馬淵良三の日記が残っており、明治期から大正期にかけての医学教育、西洋医学の啓蒙活動が読み取れる。以上、2020年の段階で、東海地方における近代地域医療の形成過程を俯瞰できる基礎資料がそろった。

2. 研究の目的

本研究は、東海地方に伝わる明治期の医療関連資料を統合するとともに、「患者」「医療提供者」双方の視点から、近代地域医療の形成過程を明らかにし、現代地域医療の在り方に接続することを主な目的とする。目的を達成するために、日本最古の入院診療明細書が含まれる「小寺家文書」の再調査と分析、および近代地域医療における資料の収集・調査・整理を実施することとした。使用した主な資料は以下の通りである。

- ・小寺家文書：大垣市上石津町在住の小寺家に伝来する古文書群
- ・信玄病院資料：愛知県新城市新城設楽原歴史資料館所蔵
- ・大野病院関連資料：塾生馬淵良三日記、官報他
- ・吉益病院、吉益雄太郎医師関連資料
- ・濃尾地震関連資料

3. 研究の方法

本研究は、以下の3段階の研究によって遂行した。

【研究 -1】地域医療についての文献整理

1) 先行研究：文献資料の収集

地域医療に関する文献を収集する。原則として原著論文とし、必要であれば研究ノート、雑誌記事、博物館だより、自治体広報誌も含むものとする。

2) 先行研究：文献資料の整理

以下の分類によって整理を行う。

1：受療行動・疾病観、2：医療制度、3：現代医学・医療、4：古代・中世医療、5：近世・近代医療、7：文学と医学・医療史、8：その他分類できない文献

【研究 -2】資料の整理、医療に関連する記述の抽出、現地調査

- 1) 明治期の医療関連資料を収集する。併せて小寺家文書中の医療に関連する書状を再検索する。
- 2) 資料収集地域に赴き、資料原本を閲覧し、写真撮影および借用の手続きを行う。
- 3) 日誌、書状から医療関連内容を抽出し、諸帳簿とともに電子データ化、画像化する。

【研究 -1】明治後期における西洋医学受容の解明

- 1) 抽出した医療関連資料の翻刻、解題
- 2) 資料の解読：「薬価及手術料明細書」「小寺家日誌」の記載等を照合する。
- 3) 「患者」からみた西洋医学の受容：「薬価及手術料明細書」「小寺家日誌」の照合から患者の受けた治療内容、費用、入院生活の様子等を明らかにし、西洋医学の受容過程を解明する。
- 4) 「医療提供者」からみた西洋医学の受容：小寺家主治医吉益雄太郎の来歴及び吉益病院の沿革を調査し、西洋医学の受容過程を解明する。

【研究 -2】明治後期における地域医療の形成

- 1) 「患者」からみた地域医療の形成過程：「小寺家日誌」及び周辺資料の統合から地域医療の形成過程を解明する。
- 2) 「医療提供者」からみた地域医療の形成過程：「小寺家日誌」吉益病院関連資料及び周辺資料の統合から地域医療の形成過程を解明する。

【研究】研究のまとめ：アーカイブ化と社会還元

- 1) 研究のまとめとアーカイブ化：患者、医療提供者双方からみた近代地域医療の形成過程をまとめ、ポートフォリオの作成を行う。
- 2) 公表と社会還元：企画展を協力資料館で実施する。企画展は上石津郷土資料館にて第1回、第2回に分けて開催する。岐阜県大垣市教育委員会主催歴史講演会にて研究成果を報告する。

4. 研究成果

4-1. 先行研究レビュー

文献資料の整理は、以下の分類によって行った。整理の結果は以下の通りである。

1：受療行動・疾病観（38編） 2：医療制度（55編） 3：現代医学・医療（30編） 4：古代・中世医療（49編） 5：近世・近代医療（202編） 6：文学と医学・医療史（79編） 7：その他分類できない文献（31編）

近代地域医療に関する研究では竹原（2006）は、明治10（1877）年に発生したコレラ流行時における地域住民の動きをまとめているが、国の実施した予防措置は「未知」への恐怖と誤解によって地域住民の強い抵抗に遭っている。衛生概念が浸透している現代であっても、未知の病に対する恐怖から、多くの事件や問題が発生していた。細野（2004）は、人間県における医療の近代化について「上からの近代化と地域医療の現実との間の乖離を知ることができる」とし、西洋医学の受容が容易でなかったことを示唆している。西洋医学の受容は明治後期までに完了しているが、明治40年代から多くの病院が開院している。しかし、先行研究ではそのほとんどが医療提供者からの視点で考察されており、患者の姿は見えてこなかった。

4-2. 小寺家文書の資料価値

本研究では、患者からのアプローチに小寺家文書を使用した。医療資料としての価値の高さは、黒野、石川、大友（2020a、2020b）に詳細を記している。

小寺家文書には、「衛生医療」に分類される資料のほか、当主小寺弓之助とその家族で書き継がれた日誌が伝わる（図表2）。「受診」「通院」「種痘」「薬剤購入」「医療費支払い」などの医療行為に直接関係する記録のほか、「見舞い」「看護依頼」「入院にまつわる行動」など医療行為の周辺に起こった多くの行動が克明に記されている。その記述は『日誌』という表題通り、感情を交えず、簡潔な文体で記されており、明治後期の生活様式、行動が鮮明に読み取れることができ、総じて小寺家文書は「患者の視点」で東海地方の医療を俯瞰できる好資料であるといえる。なお、本報告書では日誌を『小寺家日誌』と記す。

4-3. 医療提供者の視点から考察した近代地域医療の形成

報告者が参照した医療に関する資料から、東海地方で活躍した医家の概要を図表3、4にまとめた。明治後期に新たな医療施設が多く開設されており、明治40年代以降に西洋医学の継承がほぼ完了したことが推測される。

図表3、4中の「吉益病院」は小寺家長女Aが院長の吉益雄太郎医師に虫垂炎の執刀を受けた医療機関である。小寺家は現在の岐阜県大垣市上石津町にあり、西脇友輔というホームドクターの存在が小寺家日誌から明らかになっている。本日誌には、西脇から薬剤を購入した記録や盲腸炎の診断を受けたことが克明に記されていた。

院長名	名称	院長就任時期	所在地	規模
大野啓一郎	大野病院	明治38(1905)年就任	岐阜県各務原市	病床数20床、総合病院
吉益雄太郎	吉益病院	明治41(1908)年開設	岐阜県大垣市	病床数38床、総合病院
西脇友輔		明治13(1880)年頃～	岐阜県大垣市	在村医、種痘医
西脇郁	西脇医院	明治41(1908)年開設	岐阜県大垣市	診療所
馬淵良三	馬淵医院	明治41(1908)年開設	岐阜県一宮市	診療所
牧野文齋	信玄病院	明治24(1891)年就任	愛知県新城市	病床数不明、総合病院

図表 3：近代東海地方の医療提供施設

筆者作成

病院名	所在地	設立年	院長名
林病院	郡上郡八幡町	明治36年7月	林 吉蔵
郡上病院	郡上郡八幡町	明治39年4月	田中健吉
大野病院	稲葉郡那加村	明治38年8月	大野啓一郎
高山病院	大野郡高山町	明治45年7月	千葉泰一郎
中津川病院	恵那郡中津町	明治45年7月	平尾 猛
岐阜病院	岐阜県金宝町	明治31年3月	渡邊柳吉
多治見病院	可児郡豊岡町	明治45年3月	奥村鐵太郎
小坂病院	岐阜県秋津町	明治39年6月	小坂慶二
吉益病院	大垣市竹島町	明治41年5月	吉益雄太郎
回天病院	土岐郡土岐津町	明治12年12月	遠山道榮

図表 4：岐阜県私立病院（抜粋）

(大正 15 1926 年現在)

出所：岐阜県編集(2002)『岐阜県史』p. 627

より筆者作成

4 - 4 . 患者の視点から考察した近代地域医療の形成

明治期の医療は、在村医が地域住民の元を訪れるか通院によって医療を提供し、入院治療が必要な場合、病院に行くという現代の病診連携にあたる仕組みが既にできあがっていた。入院医療を担っていたのは、大野病院、吉益病院、信玄病院のような総合病院であった。小寺家日誌から、入院までの流れを読み取ることができる。年代はすべて明治 41(1908)年である。

【資料 1】 下線筆者、原文は縦書き。

5月27日 雨天 水曜

弘とAと西脇友輔方へ行き、弘は先の通水薬一び貰ひ、Aはモウチョウエンにて水薬と散剤とを三日分、こーやくを一かいと貰ひたり

5月30日 曇天 土曜

A義西脇友輔方へ行き診断ヲ受ケ水薬壱瓶、散薬三日分、弘ノ水薬一瓶貰ヒ来リ

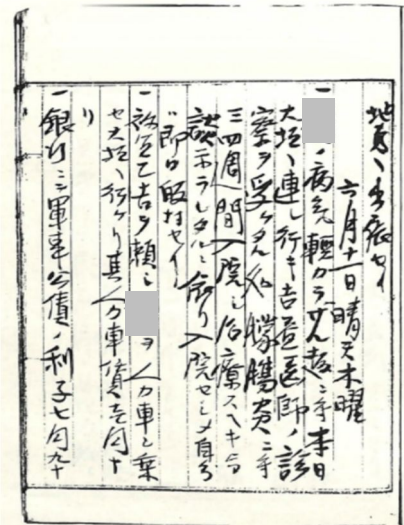
【資料 2】

6月11日 晴 木曜

Aノ病気軽カラザル趣ニ付、本日大垣へ連レ行キ吉益医師ノ診察ヲ受ケタル処、臍腸炎(もうちょうえん：筆者注)ニ付三四週間入院シ治療スヘキ旨談示ラレタルニ依リ入院セシメ、自分八日帰村セリ

【資料 1】では、Aが西脇友輔のもとで外来治療を受けていることがわかる。5月の段階で盲腸炎(虫垂炎)の診断がなされており、しばらくは薬剤治療で凌いでいたようだ。明治期に実施されていた薬剤療で用いられたのは、「甘汞下剤(塩化水銀)」「大黃剤」「塩類下剤」「リチネ(ひまし油)」などの下剤、莨菪越幾斯(ろうとうエキス)膏、「イヒチオール軟膏(イクタモール軟膏)」「阿片」等、下剤や痛み止めで対処療法を行っていた8)。症状が思わしくなかったため、吉益病院に受診し入院となっている【資料 2】。紹介等の事実は記されていないが、退院後の外来フォローアップも西脇が実施していることが退院後の日誌に記載があることから、入院に西脇が関わっていたことが推測される。このように、明治後期には西洋医学を基本とした地域医療の形成をみることができる。

次に、Aが受けた診療行為について個別の診療項目について記す(図表 5)。6月17日に初めての会計がなされているが、入院料の他、使用された薬剤、材料などもおよそ1週間ごとに計算が行われている。1日単位の金額は提示されておらず、現在の診療報酬体系とは異なっているが、医師会の制定した算定単位は内用薬(現在は内服薬)が1日分、外用薬が1調剤分、頓用薬(現在は屯服薬)である。この原則は現在でも引き続き使われているが、「1調剤分」を理解するには専門知識が必要で、患者には理解しづらい。信玄病院の発行した会計原簿では、1日単位の収支が記されていたので、患者に分かりやすい記載に直したと思われる。



図表 2：小寺家日誌の一部

明治 41(1908)年 6月 11日

画像提供：小寺登氏

一部に画像処理を施した

入院期間	日数	診療項目	価格（円）	備考
6月11日～17日	7	温布帯	0.150	6/11入院
6月18日～24日	7	（入院料、薬価のみ）		
6月25日～7月2日	8	（入院料、薬価のみ）		
7月3日～9日	7	（入院料、薬価のみ）		
7月10日～23日	14	大手術	15.000	7/11手術
7月24日～30日	7	交換（包帯交換か？）	0.500	
7月31日～8月6日	7	交換（包帯交換か？）	0.200	
8月7日～10日	4	耳洗（耳洗浄）	0.250	8/11退院

図表 5：各診療項目と診療報酬

「薬価及手術料明細書」より筆者作成

4 - 5 . 資料の統合から明らかになった吉益雄太郎医師の地域貢献

近代地域医療にかかわる資料の収集・統合の過程で吉益雄太郎医師の来歴が明らかとなった。特筆すべきは吉益医師が明治 24 (1891) 年 10 月 28 日に起きた濃尾地震の救護活動をきっかけとして大垣に定住し、地域医療に大きく貢献したことである。吉益は同 11 月 3 日に京都府立療病院長猪子止戈之助とともに岐阜入りし、大垣市を中心として 2～5 か月間活動した。

その後、住民に請われ、大垣市内に診療所を開設した。明治 36 (1903) 年に単身、ドイツのグライフスヴァルト大学医学部に留学し明治 38 (1905) 年に医学博士（ドクトルメヂチーネ）の学位を取得した。帰国後、明治 41 (1908) 年 5 月大垣市竹島町に病床数 31 床を有する「吉益病院」を開設し、地域医療に貢献した。明治 44 (1911) 年には 1 年間の入院患者数 629 人、延患者数 11,492 人、外来新患者数 2,760 人の大規模病院となり、地域の医療を担う中心的存在になっていった。吉益の没後、病院は人手に渡ったが、屋号の「吉益医院」は平成まで存在した。

4 - 6 . まとめ

本研究は、近代地域医療の形成過程を「患者」「医療提供者」双方の視点から明らかにすることを主な目的として遂行した。その結果、明治後期に西洋医学を基本とした医療が実施され、インフォームドコンセント、病診連携などを通じた地域医療が形成されつつあったことを明らかにすることができた。しかし、治療に係る費用の用意、患者周辺の環境整備、医師の手配等健康保険施行前に入院治療を受けることが、大事件であったことも小寺家文書から読み解くことができた。また、病院への手土産、快気祝いなど患者やその家族には多くの雑事があり、地域医療の形成過程において患者の役割が重要であったことも示唆された。

研究の成果は、以下の通り社会還元を行った。

- ・上石津郷土資料館主催「企画展 小寺家文書にみる西濃地域の医療」全面協力
会場：上石津郷土資料館、会期：2024 年 6 月 29 日～11 月 25 日
- ・大垣市教育委員会主催 歴史講演会「小寺家文書から見えてきた西濃地域の医療」招待講演
- ・第 26 回 東海ヘルスケア・マネジメント研究会「古文書の統合から見えてきた 近代地域医療の形成 小寺家文書を中心として」特別講演

【謝辞】

本研究を終始支えてくださった上石津郷土資料館の皆様、小寺家当主小寺登様、吉益家当主吉益隆司様、新城設楽原歴史資料館館長湯浅大司様、大垣市教育委員会の皆様に厚く御礼申し上げます。

【引用参考文献】

- ・黒野伸子、石川寛、大友達也（2020）「小寺家文書にみる明治後期の地域医療（2）-明細書から読み解く明治後期の医療費-」『レセプト論考』（2）日本レセプト学会、pp.17-36
- ・黒野伸子、石川寛、大友達也（2021）「東海地方における近代地域医療の形成と西洋医学の受容（1）-新たに発見された医療関連資料の考察から-」『岡崎女子大学・岡崎女子短期大学研究紀要』（54）pp.47-56
- ・竹原万雄（2006）「近代日本における新医療導入をめぐる相克と克服」『医療と社会』（15）医療科学研究所、pp37-51
- ・細野健太郎（2004）「医療の「近代化」と在村医 - 入間県を事例に」『文書館紀要』（17）埼玉県文書館、pp.2-16

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 黒野伸子, 大友達也	4. 巻 7
2. 論文標題 医療における木炭の効用と歴史	5. 発行年 2025年
3. 雑誌名 レセプト論考	6. 最初と最後の頁 58-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 黒野伸子, 福嶋裕造, 大友達也	4. 巻 16
2. 論文標題 濃尾地震における救護活動と地域医療の発展 - 小寺家文書と周辺資料の統合から -	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 宮崎学園短期大学紀要	6. 最初と最後の頁 15-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 黒野伸子	4. 巻 20
2. 論文標題 近世近代における呪術と医術 - 小寺家文書、野間家文書、大塩家文書の比較から -	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 教育研究	6. 最初と最後の頁 52-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 石川 寛	4. 巻 51
2. 論文標題 治水の記憶と伝存史料 「宝暦治水」をめぐって	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 120-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒木由美、本野勝己、虫明昌一、櫻村菜穂	4. 巻 1
2. 論文標題 これからの病院に求められる事務職の人材について－経営・管理者へのアンケート調査から－	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 JADP論文集	6. 最初と最後の頁 13-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒野伸子、石川寛、大友達也	4. 巻 特別号
2. 論文標題 西洋医学の受容過程と近代地域医療の発展 - 東海地域における医師たちの活動をてがかりに	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 JADP論文集	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岡崎一浩、河合 晋	4. 巻 38
2. 論文標題 ERPが作る自動仕訳の原理と実際	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本経営システム学会誌	6. 最初と最後の頁 43-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 黒野伸子
2. 発表標題 小寺家文書から見えてきた西濃地域の医療
3. 学会等名 大垣市教育委員会主催 歴史講演会 (招待講演)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 黒野伸子, 福嶋裕造, 大友達也
2. 発表標題 濃尾地震における吉益雄太郎の救護活動と地域医療への貢献 - 小寺家文書と周辺資料の統合から -
3. 学会等名 第125回日本医史学会総会・学術大会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 大友達也, 黒野伸子
2. 発表標題 「大友式改定率増減配分式」の試み
3. 学会等名 第6回日本レセプト学会国際学術大会（国際学会）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 黒野伸子
2. 発表標題 古文書の統合から見えてきた 近代地域医療の形成 小寺家文書を中心として
3. 学会等名 第26回 東海ヘルスケア・マネジメント研究会（招待講演）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 黒野伸子、大友達也
2. 発表標題 東海地方における近代地域医療の形成－小寺家文書をてがかりに－
3. 学会等名 第123回日本医史学会学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 虫明 昌一、櫻村菜穂、黒木由美、本野勝己
2. 発表標題 これからの医療機関に求められる医療系事務職員の人材像-アンケート自由記述の計量テキスト分析-
3. 学会等名 第48回日本診療情報管理学会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 大友達也, 小熊英国, 河合晋, 黒野伸子, 酒井一由, 坂本ひとみ, 瀬戸僚馬, 内藤道夫, 長面川さより, 秦康宏, 服部しのぶ, 堀内寛之	4. 発行年 2024年
2. 出版社 同友館	5. 総ページ数 230
3. 書名 レセプト管理学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	石川 寛 (Ishikawa Hiroshi) (30612527)	名古屋大学・人文学研究科・准教授 (13901)	
研究分担者	大友 達也 (Otomo Tatsuya) (90369497)	就実短期大学・生活実践科学科・教授 (45302)	
研究分担者	黒木 由美 (Kuroki Yumi) (40737392)	川崎医療福祉大学・医療福祉マネジメント学部・准教授 (35309)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	河合 晋 (Kawai Susumu) (20560725)	岐阜協立大学・経営学部・教授 (33701)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協 力 者	真木 奈美 (Maki Nami)	山口県文書館・学芸員	
研究 協 力 者	福嶋 裕造 (Fukushima Yuzo)	福嶋整形外科医院・副院長	
研究 協 力 者	小寺 登 (Kodera Noboru)		
研究 協 力 者	吉益 隆司 (Yoshimasu Takashi)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関